

広報

環境カウンセラーちば

第45号
 特定非営利活動法人
 環境カウンセラー
 千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
 環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

元服して1年のEC千葉

理事長 見並 勝佳

環境カウンセラー千葉県協議会（EC千葉）の設立15周年のお祝いをし、私が理事長を拝命した昨年の通常総会から約1年が経過しました。EC千葉が生まれ、15年の義務教育を終え、元服してからの1年間でした。



理事長として、どれだけ会の発展に寄与できたかを考えると、忸怩たるところもありますが、ここでこれからの活動について少し述べます。

環境カウンセラー制度自体も、國廣 隆紀前理事長が指摘しているように曲がり角に来ている感があります。

ここ数年の新規登録者数の推移をみると次の表のようになります。（人数には両部門の登録者を含む）

年度	市民部門	事業者部門
平成22年度	41	69
平成23年度	44	47
平成24年度	22	30
平成25年度	22	27

平成8年度に制度が発足し、平成22年4月に4,599名（ピークの21年4月は4,783名）となりました。

しかし、平成22年度以降の新規登録者数の減少、3年毎の更新と毎年の活動報告書提出という比較的厳格な要件があるので、現在は約4,000名が登録されていると推定できます。（ウェブに経歴等を公開している人は、4月現在で延べ3,587名）

平成22年度の事業仕訳ではかなり制度について、議論され、運営の一部が民営化されました。

現在のEC千葉の会員数は115名で、NPO法人で会員資格を問わないため環境カウンセラーに限定しているわけではありませんが、登録者数の減少と言う「少子化」は、EC千葉も同様で必然的に「高齢化」も招いています。ちなみに千葉県の登録者数は平成22年度で229名ですので、現在の会員数からのEC千葉の組織率は約50%です。

一方、EC千葉の活動の大きな原資であった、県との協働事業の減少と景気低迷等の影響を受けたEA21活動の低迷から、3年程先に来るであろう「財務問題」を今の内に「財務課題」として解決策を見出す必要があります。

どの課題もかなりの難問ですが、自助努力で解決していくしかありません。「少子化」と「高齢化」は、会員を環境カウンセラーに限定していない現在、どのような活動を行い、どのようにして幅広い人々を巻き込むことが可能かを検討したいと思っています。

もうひとつの財務課題は、かなりの難問ですが、避けては通れません。幅の広い意見交換が必要と考えています。今年度は、これらの問題に関する検討委員会のような組織を作り、検討された案はできるものから実施したいと考えています。検討過程は、広く会員に広報していくこととします。

昨年度、環境学習センターのご尽力で、環境教育促進法にもとづく「環境教育等支援団体」としての申請を環境省に提出しました。

まだ認められてはいませんが、これを梃子にして、県・市町村あるいは民間等の環境教育公募案件への応募を積極的に進めたいと考えています。この応募の作業量はかなりの負荷となることが予想されます。応募とその後の環境教育の実行には、会員の皆様の力強いご支援と参画を募りたいと考えています。

皆様の熱いご協力をお願い致します。

第4回 EC 全国交流会を千葉で開催

NPO 法人環境カウンセラー全国連合会（ECU）主催の環境カウンセラー全国交流会は、これまで、2010年の生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の名古屋開催に合わせて第1回を名古屋で、第2回を福島、第3回を京都でと開催されてきた。

第4回環境カウンセラー全国交流会は、千葉で開催することとなり、EC千葉が準備を引き受け、10月12日（土）に千葉市内のホテルプラザ菜の花で開催された。

【参加者】

環境カウンセラー：福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、城南、武蔵・多摩、杉並、城北、神奈川、愛知、兵庫、奈良、滋賀、千葉から合計76名
来賓・外部講師：7名

主催者挨拶：ECU 理事長 鈴木富雄氏

来賓挨拶：環境省環境教育推進室長補佐 尾形鉄二氏
千葉県環境生活部次長 矢澤裕氏

【講演会】（13：00～18：00）

【基調講演】

「昨今のエネルギー事情および環境への取組み」

千葉大学大学院人文社会科学部教授 倉阪秀史氏
わが国の再生エネルギーの開発、普及状況と今後のシナリオについて解説され、とりわけ国内の市町村別の再生エネルギーの供給実態を把握できる「永続地帯」のシステムが紹介された。



倉阪 秀史先生

【講演】

「千葉での再生可能エネルギーの普及活動」

EC千葉 理事 國廣隆紀氏

環境カウンセラー活動として2つの事例を紹介。

袖ヶ浦市協働事業として「住宅用太陽光発電システム設置の普及活動事業」、大多喜町の「面白峡水力発電所の復活事業」の支援。

【懇親会】（16：00～18：00）

参加の環境カウンセラーと来賓が、和やかなうちにも活発な情報交換と意見交換が行われた。

各協議会が順番に挨拶と自己紹介、話題提供し、大いに盛り上がった。



懇親会（背景に EC 千葉のポスター）



最後の挨拶 EC千葉 見並 勝佳理事長

【参加者の反応】

全般的に好評であった。礼状の中から1件紹介する。

EC全国交流会では大変お世話になりました。

まず、EC千葉のみごとな役割分担と運営に心から敬意を表します。

また環境教育促進法は笛吹けど踊らずといった残念な風潮のなか、EC千葉の取組と実績を拝聴して「かくあるべし」とEC魂を揺さぶられたのは、ひとり私だけではなかったと感じました。

来年はESD10年の締めくくりの年にあたり、中国地方で国際会議が開催されますが、来年のEC全国交流会では千葉取組の波及効果を期待したいと思います。写真ありがとうございました。

（ECU 常務理事 國廣隆紀、ECU 理事 二宮恵）

開催報告

平成25年度秋季研修会

平成25年11月23日(土)終日(10:00~17:00)
京葉銀行文化プラザ7階第6会議室にて秋季研修会
を実施した。

会員のうち以下の36名が参加した。

有馬、伊藤、今井、大山、上口、國廣、倉田、荒野、
小関、志澤、鈴木、種本、土田、田、戸村、中川、中
庭、西田、二宮、橋本、服部(達)、服部(俊)、林、
久本、廣川、古畑、松本(源)、三須、見並、宮田、向
井、茂木、茂利、山口、山本、吉田(昌)(敬称略)

当協議会(EC千葉)会員の山本 忠千葉大名誉教授
に「地球温暖化の原因および現状と対策」と題して4
時間にわたり講演していただき、質疑応答の後、「地球
温暖化の原因と現状を知って、いかに活動に活かすか」
という視点で、地球温暖化対策活動状況について情報
の共有化を行った。

講演後の質疑応答では、①大気中の水分の温室効果
の説明はむずかしい ②メタンガスの問題は意外に重
要 ③海洋の温暖化も進行している ④植物の光合成
に対して、人類はどこまで追及できているか ⑤太陽
の活動(黒点運動)との関係 ⑥温室効果ガスによる
地球温暖化問題のタイムスケールは200~300年、氷
期は10万年周期で次元が異なる……等、温暖化問題
を理解する上で、種々学ぶことが多いことを改めて認
識した。

会員としての活動は、啓発事業が中心となるが、
地球温暖化問題やその対策については、科学的に明確
なこと、正しい事象、推定事項、等を正しく理解して
取り組む必要を実感した一日であった。

(事業部副部長 宮田 勉)



開催報告

ECU 環境教育イベント

プラザ展示・ECU 関東ブロック交流会

NPO 法人環境カウンセラー全国連合会 (ECU)では、
渋谷の国連大学展示場を借り受けて9月17日(火)~28
日(土)の間、展示した。

ポスター展示、セミナー、交流会、造形物展示、販売
物展示、相談コーナーなどを設けた。

出展はECUのほか、杉並、城南、城北、武蔵野・多
摩、福島、千葉の協議会が参加した。

EC千葉からは、期間中、つぎのような内訳でA1判
12枚のポスター展示が行われた。

- ①EC千葉(概要)2枚 ②EMS支援センター2枚
- ③温暖化対策センター2枚 ④環境学習センター2枚
- ⑤廃棄物対策センター1枚 ⑥水環境対策センター1枚
- ⑦生物多様性研究会2枚。

これらのポスターは、すでにあったポスターを各セン
ターで見直し、見並理事長をはじめ関係者が総力を注
ぎ込んで完成させたものである。

その甲斐あって良いものができ、他の協議会からも高
い評価を受けた。

福島から東日本大震災後の復興が進まない状況をポ
スター展示で訴えていたのが印象に残る。

9月21日(土)14:30~16:30、ECU 関東ブロック
交流会を開催した。

東京、神奈川、茨城、福島、千葉から29名が参加し
て、ECU 常務理事で関東ブロック連絡会長の國廣 隆
紀の進行で交流を深めた。EC千葉からの参加は12名
であった。

今回の展示は、全般的に参加者多数の大賑わいとま
では行かなかったが、老若男女が参加され、それなりの
効果があったと考えられる。

(ECU 常務理事 國廣隆紀、ECU 理事 二宮 恵)



EC 関東ブロック交流会の様様

開催報告・開催案内

企業環境セミナー (ISO14001)

企業環境セミナーは、当協議会 (EC 千葉) が発足した 1998 年の 10 月 2 日 (金) に第 1 回目を幕張・セイコーインスツルメントビルで開催した後、ISO14001 に関する情報提供を目的として毎年 10 月に欠かさずことなく続けており、昨年 10 月 18 日 (金) には千葉商工会議所で第 16 回目を開催した。

第 16 回は「環境マネジメントシステムの動向と有益な活用」をテーマにして、第 1 部では、公益財団法人日本適合性認定協会認定審査員の森川 高志氏から「ISO14001 改訂の動向及び新たに EMS 認証機関に適用される認定の補足基準について」のお話を伺った。

第 2 部では、(1) リコージャパン株式会社千葉支社 (オフィス機器・システムの販売とサービス業) の半澤 毅氏から「オフィス環境改革実践事例のご紹介」と、(2) 千葉大学法経学部 2 年生で同大学環境 ISO 学生委員会の植草 太郎氏から「千葉大学における学生主体の環境マネジメント」についてご紹介をいただいた。

第 3 部では、EC 千葉の顧問で、ISO の審査員の荒野 詰也氏に「マネジメントシステムの“見える化 PDCA”による企業活性化」の講演をお願いした。

毎回、受講者の皆さんにアンケートをお願いしており、今回も多くのご好評とともに改善のためのご指摘をいただくことができた。受講者の皆さんの声を糧にしてこのセミナーを継続していきたい。

2014 年は 10 月 17 日 (金) 13 時～17 時に千葉商工会議所 14 階第 1 ホールにて第 17 回企業環境セミナーを開催する。内容は企画段階であるが、「環境マネジメントシステムの効果的な活用」をテーマにして、基調講演、事例紹介 2 例、一般講演を計画している。

何れの講演も現在 ISO14001 に取り組まれている組織の事業経営に資すると同時に受講者の実務にも役立つ内容となることをめざしている。多くの皆さんの受講をお願いしたい。

(EMS 支援センター長 種本 利治)



開催報告・開催案内

内部監査員養成講座 (ISO9001、ISO14001)

ISO9001 内部監査員養成講座は 2007 年度から、ISO14001 内部監査員養成講座は 2005 年度から毎年 2～3 回の開催を継続している。主催者は、千葉商工会議所と当協議会であり、会場は千葉商工会議所としている。講師は EMS 支援センターに所属している会員であり、組織内の維持管理、外部審査及び内部監査員養成の経験が豊かなベテランである。

この講座は、定員 24 人の 2 日間コースを基本としており、ISO 取組の意義と効果、ISO 規格内容、内部監査の進め方、内部監査員に求められる力量などの解説を行った後、内部監査ワークショップを実施している。

実践的な講座になっており、受講者から好評を得ている。受講対象者は、内部監査員候補者ばかりでなく、力量向上を目指す内部監査担当者、管理責任者、事務局の方にもお奨めしている。講座終了後の理解度試験に合格した方には修了証を発行している。

以下、2013 年度の実績と 2014 年度の予定をまとめる。

1. 2013 年度の内部監査員養成講座の実績

ISO9001 : 第 14 回・・・6 月 13・14 日 (木・金)、受講者 20 人、講師 吉野 定治氏と矢野 和敏氏。

第 15 回・・・9 月 12・13 日 (木・金)、受講者 16 人、講師 矢野 和敏氏と荒野 詰也氏。

ISO14001 : 第 18 回・・・7 月 11・12 日 (木・金)、受講者 25 人、講師 西田 啓作氏と青木 誠氏。

第 19 回・・・11 月 14・15 日 (木・金)、受講者 13 人、講師 青木 誠氏と長田 彰氏。

2. 2014 年度の予定 (いずれの日も会場は千葉商工会議所 14 階第 2 ホール、時間は 9 時～17 時)

ISO9001 : 第 16 回・・・6 月 12・13 日 (木・金)、講師 荒野 詰也氏と矢野 和敏氏。

第 17 回・・・9 月 18・19 日 (木・金)、講師 矢野 和敏氏と吉野 定治氏。

ISO14001 : 第 20 回・・・7 月 14・15 日 (月・火)、講師 長田 彰氏と宮田 勉氏。

第 21 回・・・11 月 17・18 日 (月・火)、講師 西田 啓作氏と田 博秋氏。

上記の他に内部監査員養成講座では出前講座も実施している。2014 年度の実績では、4 月 5 日 (土) に松戸市の会社で受講者 5 人の ISO9001 講座を野口 久氏が講師となって実施した。出前講座の場合には受講される側のご希望を織込んだ講座を編成する。

(EMS 支援センター長 種本 利治)

平成 25 年度浄化槽使用者向け啓発講習会

水環境対策センターの平成25年度の最大の活動である「浄化槽使用者向け啓発講習会」について報告する。

この講習会は、平成21年度に千葉県と当協議会(EC千葉)との協働事業として開始した。

当時の EC 千葉には現在の水環境対策センターがなく、水関係の仕事に従事された会員が少なく、講習会を実施するメンバーの募集に苦勞した。

最初は「水環境対策研究会」としてスタートし、講習会の実績が出た平成23年度から「浄化槽啓発特別プロジェクト」に改称し、さらに平成25年度からは「水環境対策センター」に一本化された。

早いもので講習会を開始してから4年になった。

平成23年度からは千葉県環境生活部水質保全課が主催し、EC千葉は講師を務めることになり、負担は軽減され、その分テキストの改定、プレゼン資料のパワーポイントの修正に注力できるようになった。

また、講師用テキストの改定と説明文を追加して講師間のレベルの統一を図り、講義内容の充実を目指してきた。

平成25年度は、千葉県環境生活部水質保全課と千葉県浄化槽団体連絡協議会の協同主催となり、より充実した運営がなされるようになった。

EC千葉の水環境対策センターは、講師のレベルアップのため、現場作業の見学会、特に清掃作業の実状視察及びし尿処理場の見学を行った。

講習会開催ではメンバー以外の方にも参加いただけるようになり、とくに辻川様、種本様、西田様には講習会の講師のサポートに活躍していただき、感謝すると同時に準メンバーとして今後も引き続きご協力いただきたいと思う。

平成25年度は、次の県内5会場で実施した。

(毎回、土曜日午前10:00~12:00に実施)

- (1) 10月19日、大多喜町中央公民館(受講者:17名)
(講師、見並、古畑、サポート、稲葉、上口)
- (2) 11月9日、成田市下総公民館(受講者:33名)
(講師、久保田、上口、サポート、西田)
- (3) 11月16日、多古町コミュニティプラザ(受講者:25名)
(講師、上口、久保田)
- (4) 11月30日、袖ヶ浦市市民会館(受講者:34名)
(講師、稲葉、西田、サポート、久保田)
- (5) 12月7日、市川市曾谷公民館(受講者:39名)
(講師、見並、古畑、サポート、種本、上口)

平成24年度からは浄化槽メーカーの協力で実物大の浄化槽のカットモデルを提供いただいているので、プレゼン映像のパワーポイントでの説明が簡便化され、受講者も実物を見てからの講習会となり、理解し易いと好評である。



実物大のカットモデルを前にしての説明

平成23年度以降の講習会の計画は、公共下水道未計画地域を対象としてきた。その結果、平成25年度までの3年間の啓発講習会としての役割は、十分に機能した。

そこで、主催者とはすでに調整中であるが、平成26年度の講習会会場の選定は下水道地域も対象にさせていただくように要請している。下水道地域にも多くの浄化槽が設置されており、船橋市54,500基、松戸市49,300基、市川市47,800基、柏市33,400基、市原市30,800基などがある。その他、東葛地区も多くの浄化槽が設置されている。

このように多くの設置世帯に対して啓発をするための今後の課題は、講師陣の強化である。

一回の講習会には専任講師が実質3名は必要である。講師陣の高齢化もあり、水環境対策センターの限られたメンバーだけの対応には限界がある。

浄化槽講習会は水環境対策センターの重要活動基盤であり、これを将来にわたり継続していける体制作りを急ぐ必要がある。

私たちの生活は、水なくして維持できず、将来にせめて現状の水環境を残すことが私たちの務めと考える。私たちの活動と一緒に参加していただきたく願います。

(水環境対策センター長 上口 清彦)

EA21 審査人力量向上研修会

2月25日(火)、東京都杉並区「高井戸地域区民センター」3F第九集会室にて EA21 審査人力量向上研修会を開催した。

この研修会は、「EA21 中央事務局認定の研修会」として、EA21 地域事務局千葉県環境財団、EA21 地域事務局東京中央及び EA21 地域事務局東京の3地域事務局が主催の研修会で、今回は当協議会（EC 千葉）が、企画・運営を担当した。

今回の研修には、千葉県 25 名、東京都 23 名、神奈川県 6 名、埼玉県 1 名、山梨県 1 名からなる合計 56 名の EA21 審査人が参加した。

研修の目的は、「事業者のためになる審査が出来る審査人になる」ための研修とした。

講習内容は以下の通りで、講師は、弁護士の佐藤 泉様以外は、すべて EC 千葉の会員が担当した。

- | | |
|-----------------------------|------|
| 1. 報告書作成の注意事項と事業者参考事例 | 種本利治 |
| 2. 中小企業の省エネ診断について | 國廣隆紀 |
| 3. 見える化 PDCA の活用 | 荒野喆也 |
| 4. 化学物質管理に関する法規制 | 有馬富穂 |
| 5. 環境関連法のトピックスと遵法について | 佐藤 泉 |
| 6. ISO14001 の参考にすべきところ | 長田 彰 |
| 7. ワークショップ：事業者・経営のためになる審査とは | 橋本 正 |

1. では、審査報告書の作成の注意事項のほか事業者に関する参考事例として、EA21 認証取得後の普及活動に多面的に協力していただくとともに審査人に対して受審者の立場から有効なご指摘をいただいている齋藤会計事務所様、また EA21 認証取得により取引が拡大している大金興業様様についての紹介を種本様にいただいた。

2. では、技術士として、企業コンサル経験の豊富な國廣様に省エネ活動の視点から省エネ診断について講演していただいた。

3. では、やはり技術士として企業指導経験の豊富な荒野様に「見える化 PDCA」による企業経営の活性化方法について講演していただいた。

4. では、環境省登録の化学物質アドバイザーの立場から、有馬様に審査人に必要な化学物質対策の最近の動向や物質管理に関する法規制の状況について講演していただいた。

5. では、唯一の外部講師として弁護士の佐藤様に「環境関連法のトピックスと遵法について」を講演してい

ただいた。

6. では、ISO14001 主任審査員としての活動もされている立場から、長田様に同じ EMS として ISO14001 の参考にすべきところについて講演していただいた。

7. では、ワークショップを行うにあたって、参加者に事前準備として、事業者や経営に役立つ審査を行うため、「事業者・経営のためになる本業に直結した環境目標の設定」について検討していただいた。

その上で、参加者を 5 グループに分け、ワークショップを行った。進行役は、在職中に小集団活動の指導経験の豊富な橋本様に担当していただいた。

今回 1.~4. と 6. については、知識の確認による力量向上を図るものとして講演を設定した。

しかし、5. と 7. については、別の視点で企画した。

この種の研修会では、環境関連法規に関する網羅的な講演があるが、5. は、その講演の代わりに設定した。

受講者のほとんどが、すでに網羅的な講演を複数回受講しているため、今回は、環境法の訴訟に接している佐藤弁護士が事業者等に説く「環境関連法の基本はリスク管理」、つまり、「法律には解釈の余地がある。でも、社員に勝手に解釈させない。法律を先取りして、リスクを低下させる。安定したリスク管理・法遵守のための PDCA が必要。」との考えを聞いていただくことが有効であると考えた。

当日のワークショップで、5 つのグループが意見交換し、その結果をまとめて発表していただいた。

ワークショップでの意見交換は、審査人それぞれが良い刺激を受けたと思われ、研修後のアンケート結果を見ても「うまくいった」と感じている。

審査人それぞれが、建設的な思考で事業者と接して審査に良い影響を与えることを期待する。

(EMS 支援センター副センター長 宮田 勉)



佐藤 泉弁護士

講師派遣

君津市上総公民館女性学級

君津市上総公民館には、女性学級があり、日々の暮らしや健康について考え、地域の仲間と学習し、交流を深めるために年間、全7回の講座をもたれている。

平成25年度は、生き物に欠かせない水について研修するので、その第3回目で(8月21日)、「水の循環とエコのお話」と題して講義をして欲しいとの依頼があり、約20名の主婦層の方々に対して講義を行った。

当初、「平成の銘水100選」に選ばれた「久留里の名水」が湧出する所でレクチャーが務まるかと案じたが、生活に直結した内容で実体験にもとづく事例を入れた次のような内容とした。

地球上の水と大循環、水の利用、食糧自給やバーチャルウォーターにかかわる食生活、飲料水の浄化、浄化槽のはたらきと適正な使い方、水質基準、省エネ・温暖化対策・環境保全にかかわる水の使用方法などしたが、熱心に聴いていただき、質疑も活発であった。

(広報部長 國廣 隆紀)

講師派遣

うらやす市民大学

平成25年度から、うらやす市民大学コーディネーターと講師を担当しておられる山本 忠先生(千葉大学名誉教授、EC千葉の環境学習センター副センター長でもある)から講師就任の紹介があり引き受けた。

うらやす市民大学受講生は、12コース中から希望するコースを学ぶことができ、市民活動の担い手を育てることを目的にされている。

環境コース「地球に優しいうらやすの環境を守り育てる—自然との共生を大切にすうらやすを築こうコース」の全11回中、1回(10月25日)の講師を担当した。(90分 19名)

- 1.テーマ:地球環境問題と生物多様性の危機
- 2.生物多様性とは 生態系サービスとは
- 3.現代の生物多様性の危機の特徴と原因
- 4.生物多様性を保全する国際・国内の取り組み
- 5.私達に求められていること

受講生からは、「三番瀬は、なぜラムサール条約に登録できないのか」など、質問や意見が多く出された。

今後、浦安市民が生物多様性への関心を深め、自然との共生を願い、地域や国際社会へのつながりを担うきっかけとなることを願う。

(生物多様性研究会副会長 鈴木 優子)

活動報告

袖ヶ浦市での太陽光発電システム普及事業

平成24年度から袖ヶ浦市では、市と市民団体との協働事業提案制度が始まり、これに10年前に設立して環境省の地球温暖化対策モデル事業を受託し地域の227世帯の温室効果ガス排出量を平均2.8%削減達成した「そでがうら地球温暖化対策地域協議会」が「住宅用太陽光発電システム設置の普及活動事業」について応募し採択され、3月末に事業を完了した。

この事業は、平成20年度から、住宅用太陽光発電システムを設置する世帯に市が補助金を交付した318世帯に対し、世帯ごとの発電実績の追跡調査をEC千葉の協力のもとに行ったものである。

このような調査は個人情報保護の観点から取り組みにくく事例が少ないが、袖ヶ浦市の日照条件を加味して太陽光パネルの設置条件による影響など貴重なデータが得られた。ここで得られた調査ノウハウを他の市町村などに活用していきたい。

(そでがうら地球温暖化対策地域協議会事務局長 國廣 隆紀)

出展報告

ふなばし市民活動まつり

9月21日(土)、市民活動サポートセンター・市民文化創造館「きららホール」において、市民活動サポートセンター開設10周年事業「ふなばし市民活動まつり」が開催された。

EC千葉は、このイベントにポスター展示で参加した。当協議会の活動内容のA1サイズポスターを、9月初めから同28日まで、船橋駅前「FACEビル」5階で展示した。

このイベントには、このサポートセンターに登録している市内外の66団体が出展した。

ポスター展示以外にも21日には、松戸 徹船橋市長をはじめ杉田 修市民協働課長らの参加もあり、講演会やパネルディスカッション、舞台でのパフォーマンス等多彩な催しがあった。

ご存知と思うが、このサポートセンターは船橋駅前にあり交通の便も良く、吹き抜けの明るい打ち合わせスペースがあり、パソコンや印刷機も借用でき、EC千葉はその登録団体である。

(理事長 見並 勝佳)

出展報告

エコメッセ2013in ちば

昨年9月28日(土)幕張メッセ国際会議場にて、エコメッセ2013in ちばが開催された。

公式発表の入場者数が10,200名と盛況であった。

EC千葉は、「環境について調べてみよう」を統一コンセプトとして出展した。事務局、地球温暖化対策センター、水環境対策センター、生物多様性研究会の活動紹介ポスターを展示するとともに、「緑のカーテンづくり」の呼びかけと昨年前半、各地の測定点で400ppmを超えてしまった大気中のCO₂濃度に関する展示を行った。

大気中のCO₂濃度の展示では、経年変化を示すとともに、時刻別の推移グラフも示し、光合成等の影響も理解していただいた。

CO₂メーターによる呼気等のCO₂濃度測定も行い、約60名の方が測定にチャレンジした。また、クイズラリーの一拠点としても参加した。

「緑のカーテンづくり」では、会員が自ら取り組んだ緑のカーテンで採取したゴーヤ、朝顔、フウセンカズラの種子の配布を行った。また、それぞれのグリーンカーテン周辺での温度測定結果も写真とともに紹介した。種子の配布は400袋に達したが、これらの種子が、今年どこかで、グリーンカーテンになっていることを期待したい。

今年の「エコメッセ2014 in ちば」は、9月23日(火・祝)に幕張メッセ国際会議場にて開催される。EC千葉ももちろん出展するが会員の皆様が取り組んだグリーンカーテンで採取された種子の提供をお願いします。

出展内容がさらに魅力のある内容となるようご協力を期待したい。

(事業部副部長 宮田 勉)



出展報告

ちば市民活力創造フェア in きぼーる

昨年11月16日(土)、17日(日)の2日間、千葉市の「きぼーる」にて、NPO・ボランティア団体の市民活動発表・展示会が開かれ、EC千葉は、展示参加と同時開催の「アクティブシニアのための地域活動スタートアップセミナー」のプレゼンテーションを担当した。

展示には、それぞれ内容を刷新したポスター3枚、「EC千葉の全体活動紹介」「環境学習センターの活動」「水環境対策センターの活動など」を展示し、前面の机上に「入会案内の葉」を用意した。

この展示会と同時開催の形で、きぼーる15階で「アクティブシニアのための地域活動スタートアップセミナー」が開かれ、新しく地域活動を始めたいと希望する市民を後押しし、同時に各団体の入会を促すプレゼンが、9団体で行われ、EC千葉も発表した。

参加者は40名ほどで、定年を迎えた男性が多かった。

おかげでEC千葉に対する参加者の関心が高く、展示ブースにも会の活動の説明を求める方も立ち寄られた。

(事務局長 服部 達雄、特命担当理事 戸村 泰)

出展報告

第12回白井市環境フォーラム

白井市では、毎年、白井市環境フォーラムを小中学校、事業者、民間団体、行政が協働で開催しているが、第12回フォーラムは3月1日に白井市文化会館において、「自らの手で守ろう ふるさと白井の自然と環境」をテーマとして「活動事例発表」・「環境漫才とゲーム」・「パネル展示」の内容で開催された。

当協議会(EC千葉)は、本フォーラムの後援を行うと共に、見並理事長以下5名が参加し、EC千葉の活動報告(環境学習、地球温暖化、ごみ減量、水浄化等)をパネル展示した。

今年のフォーラムは、第一部はこども達の活動発表として、市内9小学校のこども達のポスター展示と2校のこども達延べ60名による環境対応の寸劇と発表が行われ、第二部はよしもの芸人「ゴールデンボーイズと伊沢白井市長」による白井の環境行政を楽しく披露した環境漫才とジャンケン大会、第三部は、市民、事業者による環境活動事例発表(ソーラシェアリング、果物等食品残渣の活用、工業団地での環境取り組み)が行われ、参加者約200名が有意義なフォーラムであった。

(理事長 見並 勝佳、水環境対策センター長 上口 清彦)

(地球温暖化対策センター副センター長 辻川 毅)

講演会及び現場視察

遠山あき先生の講話及び面白峡発電所視察

大多喜町では、大正から昭和にかけて稼働していた面白峡発電所を復活することにされ、(株)新工法開発研究所に発注し工事を進められている。

当協議会（EC千葉）及びNPOサポート技術士センター（NPO-SPEC）が、今後、各方面にPRすることをはじめ、技術面、環境保全面で協力することにしており、昨年11月29日、21名が、遠山あき先生の話聞く会を行い、現地工事状況を視察した。

1. 遠山あき先生の話聞く会（於 市原市田淵会館）

大多喜町の出身の遠山あき先生（96歳）は、大正時代からの面白峡発電所をご存知で、養老川の流域の人たちの水運や水利の歴史にも詳しく「養老川雑記」を著述されているので、ご自宅近くに訪問し、お話を伺った。この地域の発電は、小湊鉄道の建設工事のため鶴舞に火力発電所、大多喜町に水力発電所ができたのがきっかけとのことであった。とくに当時の面白峡発電所の建設、稼働について説明をいただいた。人類は水と大きく関わりをもち、歴史は「・・・があったこと」も大切だが、「そこに・・・をした人」の存在が重要で、命がけでやった人々にたどりつくことと結ばれた。

ついでに田淵会館の近くに地球磁場逆転期の地層を見ることができるジオパーク候補地があるので、NPO-SPECの進藤義男様の案内で視察した。世界でイタリアとここでしか見られない78万年前の露頭を見て、方位磁石で針がふらつくのを確認した。

2. 面白峡発電所の復活事業の視察

養老川源流の栗又の滝での昼食後、その近くの取水口を見て、発電設備が納入されるのを待つばかりとなっている工事現場を視察した。水車にエネルギーを供給する水圧管が新旧並んでいるのが印象的であった。

（地球温暖化対策センター 國廣 隆紀）



遠山あき先生

支援報告

武蔵野・多摩ECの面白峡発電所視察

当協議会（EC千葉）及びNPOサポート技術士センター（NPO-SPEC）が、大多喜町の面白峡発電所の復活事業をPRすることの皮切りとして、2月24日、NPO法人武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会の一行27名がバスで視察されることになり、志澤及び國廣が現地に案内し、説明した。

（地球温暖化対策センター 國廣 隆紀）



開催案内

エコアクション21（EA21）普及セミナー

当協議会（EC千葉）は、千葉商工会議所及びEA21地域事務局千葉県環境財団との共催で、7月25日（金）13時～17時30分に千葉商工会議所14階第2ホールでEA21普及セミナーを開催する。

このセミナーは、環境経営システムであるEA21の外部認証登録制度が発足した2005年度から毎年開催している。

2013年末にEA21登録事業者数が全国で8,000件を超え、これから登録を目指す事業者数の拡大と併せて既に登録されている事業者の取組のレベルアップも重要な課題になっている。

そうした観点から、今回は次のような講演を計画している。基調講演として行政の立場から地球温暖化対策を含む環境経営への期待、積極的にEA21活動へ取り組んでいる千葉県内の2事業者による事例紹介、地域事務局からEA21の概要と認証登録方法。

多くの事業者の皆さんの受講をお願いしたい。

（EMS支援センター長 種本 利治）

会告

第12回通常総会及び第23回環境セミナー

当協議会（EC千葉）の第12回通常総会を定款第24条第1項により下記のとおり開催します。

また、総会に引き続いて、特別講演会（第23回環境セミナー）、懇親会（含む新会員歓迎会）を開催します。

万障お繰り合わせの上ご出席下さるようお願い申し上げます。

記

日時：平成26年5月25日（日）13:00～18:30

場所：千葉市民会館3階特別会議室

千葉市中央区要町1-1（Tel：043-224-2431）

1. 第12回通常総会13時30分～14時20分

（受付13時00分～）

第1号議案 平成25年度事業報告並びに決算報告

第2号議案 平成25年度監査報告

第3号議案 平成26年度事業計画並びに予算（案）

2. 特別講演会（第23回環境セミナー）

14時30分～16時00分

演題「地球温暖化リスクに関する最新の科学的知見
～IPCC第5次評価報告書をふまえて～」

講師 国立環境研究所社会環境システム研究センター
統合評価モデリング研究室主任研究員 高橋 潔氏

3. 懇親会 16時30分～18時30分

場所：京葉銀行文化プラザ

千葉市中央区富士見1丁目3-2

（Tel: 043-202-0800）

会費：男性5,000円、女性3,000円

お願い：総会当日、受付において平成26年度年会費（3,000円）を納入願います。当日欠席の方は郵便振替で納入して下さい。

（郵便振替口座番号:00110-5-34692）

NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会）

以上

総務部からのお知らせ

2012年8月19日～2013年3月3日の間、当協議会（EC千葉）への寄付金として、つぎの方々がありました。

青木 誠様	45,000円、	有馬 富穂様	40,000円
稲葉 信克様	1,000円、	上口 清彦様	2,000円
北落 謙太郎様	10,000円、	國廣 隆紀様	38,000円
久保田 隆様	2,000円、	鈴木 優子様	10,000円
戸村 泰様	70,000円、	長田 彰様	5,000円
西田 啓作様	1,000円、	二宮 恵様	20,000円
橋本 正様	20,000円、	福井 信行様	15,000円
古畑 義正様	2,000円、	見並 勝佳様	2,000円
宮田 勉様	70,000円		

ありがとうございました。

訃報

故 久保 博海様

昨年10月29日に逝去されました。

生前のご厚誼に感謝し、ご冥福をお祈りします。

訃報

故 長谷川 三喜雄様

12月5日に逝去されました。

生前のご厚誼に感謝し、ご冥福をお祈りします。

ECU便り

（ECU:NPO 環境カウンセラー全国連合会）

ECU担当 國廣 隆紀

通常総会開催

ECUの平成26年度通常総会が6月27日（金）に、東京都杉並区あんさんぶる荻窪で開催される。

広報 環境カウンセラーちば 第45号（発行日 2014年5月24日）

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会（発行責任者：國廣 隆紀 会員：115名）

URL：<http://ecchiba.sakura.ne.jp/>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方（郵便宛先）

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 ec_chiba_exec@yahoo.co.jp（各種ご相談、お問い合わせ先）

郵便振替口座：00110-5-34692（加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会）会費はこちらに！

編集：広報部 國廣 隆紀・佐藤 素子・二宮 恵・松本 源寿

E-Mail pxz04373@nifty.ne.jp（記事寄稿先）

再生紙を使っています。